

千葉県社保協通信

2015年度 — No13 2016年 2月 25日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉サカビル 3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール syaho2006@star.ocn.ne.jp



—県社保協・消費税廃止県連絡会共同— 2.24 JR千葉駅頭定例宣伝

“介護現場のこともっと知って！”
“私の声を必ず届けて下さい”と署名

24日、県社保協は消費税廃止県連絡会と共同でJR千葉駅前定例宣伝を行いました。

県保険医協会、千葉土建、民商・千商連、千葉労連、自治労連などから10人の参加で、テッシュ付チラシなどを350セット配布し「消費税増税中止」「必要な医療と介護は国の責任で」と署名を呼びかけました。

介護施設で働きながらケアマネの勉強中という女性は「認知症の対応など専門知識がないと無理」「仕事がきつく賃金が低いのでやめる人が多い」「介護現場のこともっと知ってほしい」「私の声を必ず届けて下さい」と署名。福祉用具の相談員という男性は、署名の要請項目を読みながら「制度の変更などについて勉強中ですが要介護2の人も特養に入れなくなるんですか？」「あの軽減税率にも納得できないんですよ」と。また別な男性は「社会保障のために増税なんて嘘っぱち。トリクルダウンもゴマカシだ。税金は金持ちから取りあいいんですよ」などと対話が広がり、「安全・安心の医療・介護」署名など35筆が寄せられました。

—各地域社保協での宣伝・署名行動の様子を県社保協にお知らせください—

勇気もらった！中央社保協代表者会議 2/16(火) 全労連会館にて 柏社保協：新山晴美

代表者会議は、中央社保協山口事務局長の方針提起、3本の特別報告—①生存権裁判②「年金引下げ違憲訴訟③福祉事業を守れ—の後、昼をはさんで2グループに分かれて交流が行われました。「柏の社保協をどうするか？」との視点から感じたことを報告します。

前日に国保の保険者支援金(1700億円)の用途について柏市にアンケートを取りに行き、裏切られた感を強くしていました。昨年5月、「国からの支援金の話は情報がない、具体化していない」という答弁だったので。ところが当初予算(3月議会で決定)の中にすでに4億円あまりを盛り込んでいたのです。憤りのおさまらないままこの会議に臨みました。愛知県では名古屋市や半田市では保険料の引き下げにその財源を活用し、県も介入しなかったというのです。発言を聞いて落ち込みました。東京からは、「子どもの医療費助成」と「子どもの均等割軽減」を重点にした署名運動の報告がありました。柏の課題に重なるような報告で、少し勇気をもらいました。

さらに石川県からは感動的な報告がありました。子どもの医療費のいわゆるペナルティが問題になっていますが、石川県は国以上のペナルティを市町村に課してきたのだそうです。これに対して輪島市の市長が「やるならやってみろ」と叛旗をひるがえすことを決意。他の市町村にも勇気を与え、19市町村のうち、15市町村までの同調を引き出したのだそうです。発言者の総括が印象的でした。この市町村のがんばりは何だろうと考えたときに、保守層を含めやはり未来を託す子どもたちは支えてやりたいという心情が湧き出たのではないのかと感じているとのことでした。

各地の報告に感動しつつも発言を控えていた私でしたが、障全協の家平さんが「障害者の65歳問題」に触れたとき「これは黙ってちゃいけない」と手を挙げました。天海さんの闘いを報告しないわけにはいかないと考えたからです。障害者や障害者福祉を介護の枠の中に流し込もうとすることに、千葉からも闘いを起こしたということ伝える責務を感じたからです。勢いに乗って足元柏での苦戦(国保の告示方式の導入)まで報告して発言を終えました。分散会最後の報告者でした。